

隼田勝臣教授 履歴・業績

奥田勝臣教授 履歴・業績

1938年（昭和13年）4月14日 石川県鳳至郡穴水町で出生
大阪府布施市（現東大阪市）で育つ

〔学 歴〕

1962年 大阪府立大学工業短期大学部卒業

〔学 位〕

1985年 工学博士（慶應義塾大学） 学位請求論文「オフィス情報システムの構築法に関する研究」

〔職 歴〕

1957年 三菱電機株式会社 中央研究所, 1965年 同社鎌倉製作所

1976年 計算機製作所, 1981年 本社

1983年 コンピュータシステム製作所, 1986年 本社

1989年～現在 専修大学経営学部教授

1971年～2003年 慶應義塾大学情報科学研究所および情報処理教育室 非常勤講師

1994年～1995年 アメリカミズーリ州セントルイスワシントン大学 客員研究教授

1997年～2001年 東京農工大学 工学部 非常勤講師

〔所属学会〕

情報システム学会

情報処理学会

IEEE Computer Society

Association for Computing Machinery

Association for Information Systems

〔社会活動〕

1970年～1971年 NHK コンピュータ講座「COBOL 入門」講師

1985年～1993年 放送大学 出演講師

情報処理学会

COBOL 作業委員会委員，論文査読委員，機関誌編集委員会委員，同
ソフトウェア作業班 幹事および主査，

情報システムと社会環境研究会 幹事 等歴任

1991年～2004年 私立大学情報教育協会 委員および大会運営委員

2005～現在 情報システム学会 理事

〔主要学内運営活動〕

[専修大学 教学主要役職]

1994年～2005年 平成6年度長期在外研究員

1998年～2002年 就職指導委員会 委員長

2001年～2003年 情報科学研究所 所長

2002年～2006年 経営学部長

教員資格審査委員会 委員

国際交流センタ委員会 委員

基本政策検討会議 委員

2004年～2006年 戦略会議 委員

2006年 社会知性開発研究センタ運営委員会 委員

[学校法人専修大学 主要役職]

2001年～2006年 評議員

2002年～2006年 理事

業績（著書、訳書、論文、特許等は学位論文関連を除き共著）

〔著書〕

NHK コンピュータ講座 ―コボル入門（1970年4月～9月），日本放送協会，（1970）.

NHK コンピュータ講座 ―コボル入門（1970年10月～1971年3月），日本放送協会，（1970）.

COBOL—プログラム編，共立出版，（1972）.

COBOL—文法編，共立出版，（1972）.

COBOL のオブジェクトコード，近代科学社，（1978）.

オフィスコンピュータ入門，オーム社，（1982）.

コンピュータ百科事典，オーム社，（1986）.

コンピュータ導入と活用，オーム社，（1992）.

情報とコンピュータ，嵯峨野書院，（1993）.

データベース，日科技連，（1993）.

コンピュータ概論—情報システム入門，共立出版，（1998）.

ITテキスト 基礎情報リテラシ，共立出版，（2000）.

コンピュータ概論—情報システム入門 第4版，共立出版，（2006）.

コンピュータリテラシー—情報処理入門，共立出版，（2007）.

ITテキスト 基礎情報リテラシ 第3版，共立出版，（2008）.

〔訳書〕

COBOL—1965年版, 原著: Department of Defense; COBOL, Edition 1965,
情報処理学会, (1968).

情報システムカリキュラム: Information Systems 95

〔特許〕ビジネスモデルのみ記載

特許3686603 情報提供システム, 情報提供方法, 利用者コンピュータ,
ホストコンピュータ及びプログラム

特許3692102 活動支援システム及び活動支援装置及び活動支援方法及び
活動支援提供プログラム

特許3868326 睡眠導入装置及び心理生理効果授与装置

以下業績を区分別に記載 (著書・訳書は重複記載)

1. わが国コンピュータの黎明期における業績

研究開発業績

Bendix G-15D の維持および数値計算

三菱電機初の計数型電子計算機 MELCOM-LD 1 の開発

マクロアセンブラ MAMA および技術計算向き言語 MUSE とその処理系
の開発

〔論文〕

【A-1】計数形電子計算機の特種演算高速化方式, 技術雑誌「三菱電機」,
Vol. 34 No. 11, (1960).

【A-2】Some Speeding up Method for Arithmetic Operation in Digital
Computer, Mitsubishi Electric Mfg. Corp. Research Laboratory, Mitsub-
ishi Denki Laboratory Reports, Vol. 2 No. 3, (1960).

- 【A-3】計数形電子計算機 MELCOM-LD 1, 技術雑誌「三菱電機」Vol. 35 No. 5, (1961).
- 【A-4】MUSE PROGRAM SYSTEM の概要, 技術雑誌「三菱電機」Vol. 35 No. 8, (1961).
- 【A-5】MAMA 自動プログラム方式, 技術雑誌「三菱電機」Vol. 36 No. 5, (1962).
- 【A-6】MUSE 自動プログラム方式, 三菱電機技報 Vol. 37 No. 8, (1963).
- 【A-7】MUSE-An Algorithmic Language Compiling System Mitsubishi Electric Mfg. Corp.
Research Laboratory Mitsubishi Denki Laboratory Reports, Vol. 5 No. 1, (1964).
- 【A-8】計算機基本言語に関する一考察, 三菱電機技報, Vol. 39 No. 3, (1965).
- 【A-9】Some Consideration and Experiments on the Basic Programming Language Mitsubishi Electric Mfg. Corp. Research Laboratory Mitsubishi Denki Laboratory Reports, Vol. 7 No. 1 (1966).

2. COBOL 研究とコンパイラ作成の自動化

研究開発業績

COBOL—1965年版 原著の翻訳書の刊行

MELCOM1530用 COBOL コンパイラの開発

コンパイラ自動作成の研究 (コンパイラコンパイラ)

〔翻訳・論文・研究発表〕

- 【B-1】計算機を用いたコンパイラ作成自動化の実験 情報処理学会 月例資料11, (1966).

【B-2】コンパイラ自動作成の一方法 電気通信学会誌 Vol. 50 No. 4, (1967).

【B-3】A Method of Automatic Compiler Generation Jour. Inst. Elect. Comm. Engns. Japan, Vol. 50 No. 4, (1967).

【B-4】プログラム書きかえ問題へのCOBOLの応用, 三菱電機技報, Vol. 41 No. 11, (1967).

【B-5】翻訳書 COBOL—1965年版, 原著: Department of Defense; COBOL, Edition 1965, 情報処理学会, (1968).

3. メインフレームコンピュータ関連

研究開発業績

ファミリー形態を採用した MELCOM3100 シリーズ開発

ACE コンパイラシステム開発

MELCOM-3100用 モデル10T, モデル10PT, モデル30T オペレーティングシステム開発

MELCOM-3100用ディスクオペレーティングシステム MARK-III 開発

〔論文〕

【C-1】MELCOM-3100 ソフトウェア(5)—ACE コンパイラシステムの概要, 三菱電機技報, Vol. 42 No. 10, (1968).

【C-2】MELCOM-3100 ディスクオペレーティングシステム(1)—FOS, 三菱電機技報, Vol. 43 No. 11, (1969).

【C-3】MELCOM-3100 ディスクオペレーティングシステム(2)—データ管理, 三菱電機技報, Vol. 43 No. 12, (1969).

4. 企業における社会活動と教育関連

教育活動等業績

NHK コンピュータ講座「COBOL 入門」講師

慶應義塾大学 情報科学研究所 非常勤講師

〔著作・著書等〕

- 【D-1】著書 NHK コンピュータ講座 ―コボル入門（1970年4月～9月），日本放送協会，（1970）.
- 【D-2】COBOL プログラミングにおける初心者の犯しやすいエラー，ソフトウェア技術，Vol.2 No.5，（1970）.
- 【D-3】著書 NHK コンピュータ講座 ―コボル入門（1970年10月～1971年3月），日本放送協会，（1970）.
- 【D-4】システムデザインへのアプローチ，bit，オーム社，Vol.3 No.10，（1970）.
- 【D-5】システムデザインの認識，bit，オーム社，Vol.3 No.11，（1970）.
- 【D-6】システム開発プロジェクト，bit，オーム社，Vol.3 No.12，（1970）.
- 【D-7】インプットアウトプットシステム，bit，オーム社，Vol.4 No.1，（1970）.
- 【D-8】著書 COBOL—プログラム編，共立出版，（1972）.
- 【D-9】著書 COBOL—文法編，共立出版，（1972）.
- 【D-10】著書 COBOL のオブジェクトコード，近代科学社，（1978）.

5. オフィスコンピュータ関連

研究開発業績

簡易言語「プログレス」を搭載した MELCOM80モデル31開発

漢字・ひらがな混じりの日本語情報が扱える MELCOM80日本語シリーズ

開発

〔論文・研究発表〕

- 【E-1】 MELCOM80シリーズモデル31 小型電子計算機システム, 三菱電機技報, Vol.44 No.5, (1970).
- 【E-2】 MELCOM80/38シリーズデータベースマネジメントシステム, 三菱電機技報, Vol.52 No.10, (1978).
- 【E-3】 オフィスコンピュータ MELCOM80/モデル38用 DBMS, DMS-3について, 情報処理学会 データベース管理システム研究会, 資料13-2, (1979).
- 【E-4】 簡易言語プログラブレスによる生産性向上について, 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会, 資料12-2, (1979).
- 【E-5】 DMS-3; オフィスコンピュータ MELCOM80シリーズ用 データベース管理システムの開発, 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会, 資料12-2 および論文誌 Vol.21 No.5, (1980).
- 【E-6】 インライン処理指向のプログラミング言語, 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会, 資料12-2 および論文誌 Vol.21 No.6, (1980).
- 【E-7】 事務処理用簡易言語, 情報処理, Vol.22 No.6, (1981).
- 【E-8】 著書 オフィスコンピュータ入門, オーム社, (1982).
- 【E-9】 オフィスコンピュータの動向及び MELCOM80 オフィスランドシリーズ, 三菱電機技報, Vol.57 No.8, (1983).
- 【E-10】 事務処理用簡易言語の動向, 情報処理, Vol.24 No.11, (1983).

6. 学位論文関連

〔論文〕

- 【F-1】 オフィス情報システムのグラフ記述の一方式, 情報処理, Vol.25

No.2, (1984).

【F-2】モデルの適応によるオフィス情報システムの構築, 情報処理,
Vol.25 No.6, (1984).

【F-3】オフィス情報システムの構築法に関する研究 慶應義塾大学大院
工学研究科提出学位請求論文, (1985).

7. 教科のとりまとめと教科書の発刊

教科の開設

情報リテラシ, コンピュータリテラシおよびインターンシップ

〔専門書・教科書の刊行〕

【G-1】著書 オフィスコンピュータ入門, オーム社, (1982).

【G-2】事典 コンピュータ百科事典, オーム社, (1986).

【G-3】著書 コンピュータ導入と活用, オーム社, (1992)

【G-4】著書 情報とコンピュータ, 嵯峨野書院, (1993).

【G-5】著書 データベース, 日科技連, (1993).

【G-6】著書 コンピュータ概論—情報システム入門, 共立出版, (1998).

【G-7】著書 ITテキスト 基礎情報リテラシ, 共立出版, (2000).

【G-8】著書 コンピュータリテラシー—情報処理入門, 共立出版, (2007).

8. ゼミナール教育とIS技術者の育成

亀田勝臣研究室の卒業生

卒業生 161名

現役生 (17期生) 9名 (卒業すると卒業生総計 170名)

〔論文等〕

- 【H-1】SEが育むべき資質とその育成に関する提案，専修大学情報科学研究所，情報科学研究，No.16，(1996)。
- 【H-2】新世代のシステム技術者への期待，専修大学情報科学研究所，情報科学研究，No.16，(1996)。
- 【H-3】情報システム技術者を目指すゼミ，私情協ジャーナル，Vol.5 No.2，(1996)。
- 【H-4】SEは何を学ぶべきか，学ぶべきではないか，情報処理学会，情報処理，Vol.37 No.11，(1996)。
- 【H-5】ゼミナールでの情報システム技術者育成の試み，専修大学情報科学研究所，情報科学研究，No.17，(1997)。

9. 企業からの研究の継承と発展（産学協同）

〔論文等〕

- 【I-1】情報システム開発の変遷とパッケージビジネス専修大学経営学部特別公開講座，(1998)。
- 【I-2】顧客とシステムインテグレータの繁栄をめざすパッケージの進化構築法，JISA.No.51，(1998)。
- 【I-3】利用者とシステムインテグレータの繁栄をめざすパッケージの進化構築法，情報処理学会シンポジウムシリーズ，Vol.99 No.2，(1999)。
- 【I-4】ソフトウェアプロダクトの進化構築法とその実験施設の建造，情報科学研究，No.19，(1999)。
- 【I-5】業種別パッケージ調査におけるグラウンデッド・セオリの応用，情報処理学会研究報告，99-IS-70，(1999)
- 【I-6】システムインテグレータにおける業種別パッケージとアウトソーシング，日本情報サービス産業協会，(1999)。
- 【I-7】技術集団の活性化—特許戦略について，株式会社シーエーエル，

(2001).

【I-8】教育メディアセンタ設立試案, 専修大学学会, 情報科学研究所
所報, No.57, (2002).

【I-9】ソフトウェアプロダクトの進化のシナリオ, 情報処理学会研究報
告, Vol.2000 No.32, (2000).

10. 情報システム学関連

〔研究発表・書評・翻訳本〕

【J-1】翻訳書 IS'97 情報システム学の学部用プログラムのためのモ
デルカリキュラムと指針, HIS 研究会 (1988).

【J-2】情報システムカリキュラム IS97について, 専修大学情報科学研
究所研究会, (1998).

【J-3】情報システム学へのいざない—人間活動と情報技術の調和を求め
て—に対する書評, 情報処理, Vol.39 No.10, (1998).

【J-4】情報システムカリキュラムの最新版: IS97について, bit, Vol.30
No.10, (1998).